

自動化の推進で生産効率向上 素早いサンプル提案と製品化

M's CORPORATION 株式会社エムズ

事業テーマ ▶ 全自動裁断機導入による小ロット・高品質を低コストに実現する生産プロセスの革新

◆企画・デザインから製造納品まで一貫生産

ホテルや飲食店の従業員などユニフォーム専門製造メーカーとして、創業以来、順調に業績を伸ばし続けてきた株式会社エムズ。一般的にユニフォームの製造については、企画・デザインと実際の縫製製造は別会社で行うことが多いが、同社の場合は企画・デザインから製造まで一貫生産していることが特徴だ。

「まず、お客様からオーダーされるユニフォームのイメージについてヒアリングを行い、その後、デザインの提案、サンプルの提案と進め、最終工程として製造、納品となります。一人の担当がお客様との打ち合わせを行いながら、すべて自社内で進めていきますので、お客様の要望どおりのオリジナルユニフォームを作れることが当社の強みです」と語るのは常務取締役の後藤了亀氏。現在はオリジナルユニフォームのほか、約600種から選べるカタログユニフォーム、そして、レンタルユニフォームも展開しているが、創業当初から手がけているオリジナルユニフォームの売上げが、全体の約8割を占めるほど、その企画力、デザイン力の高さが評価されている。

「大手ホテルチェーンや大手飲食店チェーンとの取り引きが中心となっていますので、オリジナルユニフォーム製造がメインとなっています。15年ほど前から、個人商店のお客様にも利用していただけるように、カタログユニフォームや、少ない初期投資で済むレンタルユニフォームも手掛けるようになりました。ユニフォームのことなら何でもお任せという会社を目指しています」。

◆業界特有の追加製造と小ロット生産の効率化を

ユニフォーム製造の現場特有の状況として、損耗したユニ



フォームの補填や新たに雇用した従業員用の小ロットの追加発注が挙げられる。この製造は採算が取れないことが多く、アフターフォローの意味合いが強かったが、頻繁に発生するため、低コストに対応できる生産プロセスの革新が求められていた。また、新規店舗オープンによる大量発注となった場合においても、従業員ごとのサイズ設定が細かく、部署によってデザインが変わってくるなど、やはり小ロット生産でのコスト削減と納期の短縮は大きな課題となっていた。

「特に生産上のボトルネックとなっていたのが、生地のカット工程でした。ロール状の生地を手動で解反し、必要な分をカットしたのち、型紙をパーツごとに切り分け、さらにパーツを生地に写して裁断するのですが、これがものすごく時間が掛かります。また、職人の熟練度が影響し、場合によってはラインが停まってしまうこともありました」。

ボトルネックとなっている裁断工程の生産プロセスを革新するため、同社ではものづくり補助金を活用し、自動延反機と自動裁断機を導入。リードタイムの大幅な短縮を目指した。

◆自動化設備とライン最適化でリードタイム短縮

導入した自動延反機は、精度の高い布の耳揃えと安定した解反機能により、作業者の熟練度に頼らない正確な延反作業を実現。裁断速度60m／分の自動裁断機と相まって作業効率も格段に向上した。

「自動裁断機は裁断の速さだけでなく、アパレルCADデータとの連携に優れるCAMソフトを搭載しているので、セットアップ



工程の高速化を実現した自動裁断機



自動延反機と自動裁断機を直列配置

からすべてにおいて高速化を発揮します。そのお陰でリードタイムの大幅削減を達成することができました」と課長の佐々木進氏は話す。設備導入では、ライン見直しが必要という想定外の問題が発生し、電気工事を行うなど計画から2カ月遅れの設置となったが、その間に生産プロセスの最適化計画を作り上げたこともあり、事業の遅れを取り戻すことができた。また、ラインの見直しにより、従来は延反機から裁断機まで距離があったため、延反した生地を裁断機まで運搬する工程があったが、自動延反機と自動裁断機を直列に配置したことで、この工程を省略することになり、ここでもリードタイムの削減に繋がっている。

◆生産力の向上で新たな取引先開拓も見据える

今回の生産プロセスの革新により、求められる小ロット、高品質、低コスト、短納期への対応を実現。ユーザーへのサンプル提供のスピードが速まったことで、競争力が高まっただけでなく、裁断能力を持たない縫製工場と連携し、縫製のみを発注することで、さらなる生産力向上の可能性も見えてきた。同社では生産力に余裕ができたことで、今後はカタログユニフォームにも注力していく予定だという。

「生産力向上を活かして、これまでのホテルや飲食店での拡大だけでなく、介護など今後需要が見込まれる業界へも積極的に進出していきたいと考えています。また、中国に関連会社を設立しています。国内生産では難しい案件でも対応が可能になるので、総合的に競争力が高まったと思います」と後藤氏。生産力の向上は雇用の拡大にも繋がるため、地域貢献の一助にもなればと話す。

会社概要

会 社 名	株式会社エムズ(生産本部・志津川工場)
代 表 者	代表取締役社長 徳間 寿美子
所 在 地	宮城県本吉郡南三陸町志津川沼田150-148 (生産本部・志津川工場)
資 本 金	6,000万円
従 業 員 数	44名(生産本部・志津川工場)
業 種	製造業
設立年月日	平成元年1月31日
TEL	0226-47-1135
FAX	0226-47-1136
EMAIL	msfactory@ms-uni.com
URL	http://www.ms-uni.com



INTERVIEW



代表取締役社長／徳間 寿美子 氏

従業員の満足が顧客満足の追求を可能にする

今から35年ほど前、ホテルレストランの2着のユニフォームドレスをつくったことがはじまりでした。コンセプトは自分が着たいコスチューム。以来、当社は「自分が着たいと思えるものを企画・デザインし、自分が買いたいと思えるものを販売する」という信念のもとユニフォームをつくり続けています。また、従業員が満足して働けることが顧客満足を追求できるものと考え、職場の環境にもこだわっています。震災では志津川工場の従業員が被災する経験もしました。その経験から衛生環境の重要さを感じ、衛生事業にも参入しています。また、被災地・被災者支援としての「ビー・ハッピー・プロジェクト」や、犬や猫の里親探しなどCSR活動にも積極的に取り組んでいます。従業員や取引先の幸せを叶え、地域貢献や社会貢献で多くの人の幸せを叶えることで、会社も個々の従業員も成長し続けていきたいと思っています。